

還暦過ぎて学ぶ

私は、平成二十年四月に神戸にある県立の定時制高校に入学しました。ちょうど還暦を迎えた歳です。

「もしも合格しなかったら…」と、受験したことは妻にも子どもたちにも言っていないでした。合格発表の時は、ものすごく不安で、妻には行き先を告げずについて来てもらいました。

そして、自分の受検番号、「成人五十一」を見つけたときは、とびあがるほど嬉しかったです。そこで初めて、妻に定時制高校に入学することを伝えました。合格番号の前に立ち、携帯電話で撮った私のピース写真は、一生の宝物です。

還暦にもなって、定時制高校入学を決意した理由は、中学しか卒業していないことで、悔しい思いをいっぱいしてきたからです。

私のふるさととは、奄美大島の徳之島です。自然が豊かで、人情味あふれる島です。父は、神戸に出稼ぎに行っていました。その後、私が中学二年の時に島に残っていた家族五人も神戸に引っ越すことになりました。しかし、造船所の下請けで働く父ひとりの稼ぎでは、とても生活していくことはできません。もちろん私の高校進学も考えられま



せんでした。二人の妹と弟を高校に行かせるために、長男の私が中学を卒業後に就職し、家計を助けることにしました。その頃中卒の私たちは、「金のたまご」ともてはやされていました。自分が就きたい仕事かどうかにこだわらなければ、仕事は本当にいろいろありました。最初は、父の働いていた造船所でタンカーなどの船を作る仕事を始め、その後は鉄鋼の組み立てや溶接の仕事を中心にしました。

仕事は誰にも負けないくらい頑張りました。おかげで、四十歳で「奄美工業有限会社」を設立することができました。従業員も、最盛期で二十〜三十人を数えました。それまでの仕事認められて、完成まで五〜六年間かかるドーム型の格納容器の制作も請け負いました。震災の年には、陥没した大開通りと、その下を走る山陽電鉄大開駅の線路の復旧作業をしました。阪神電鉄元町駅のトンネルから、工事の道具や機械を運び入れては、工事用の電車で何度も往復したものです。大手の重工業会社の敷地内にある大型クレーンが壊滅状態で、その復旧工事にも従事しました。さらには、三田市にある千刈水源池が干上がり、武庫川からの水を、五百〜六百メートルのパイプを引いて送り込む仕事もしました。

このように、やりがいのある大きな仕事をいくつもこなしてきたのですが、ひとつだけ悩みがありました。それは数学の力が弱いいため、図面を見ての計算も、材料調達のための計算もできずに、すべて他人任せにしなければいけないことでした。現場の作業については誰にも引けを取らないのに、いつも恥ずかしい思いをしてきました。

ある日、何とかして分数の計算を身につけたいと思い、書店に行きました。「マンガ算数おもしろ攻略」という小学生向けの本を見つけました。何か、宝物でも手に入れた気分で、わくわくして、家に持ち帰りました。それから、暇を見つけては、分数の引き算、足し算、割り算のところを、何回も何回も繰り返し読みました。書き込みもしました。本はよれて、ぼろぼろになるほど使いこみました。そして例題の計算が解けるようになった時には、

「やったあ！」と、大声をあげて叫びました。自分の胸が熱くなり、いつかは定時制高校に行きたいと思い始めていました。

私の定時制高校入学を一番に後押ししてくれたのは、今は亡き親友の娘さんの姿でした。その娘さんは、自分の人生に悩み、病気になる、そのために入退院を繰り返していました。「自分はいつたい何のために生きているのか。」と悩みぬかれたそうです。しかし、三十才になった時に、病院で出会った看護師さんの影響を受けて、人のために役立つ仕事をしたいと、看護師になる決意をしたというのです。そこで、まず勉強をし直すために予備校に一年間通ったそうです。それから、ようやく看護学校に入学して、今、三十二歳です。そんな彼女の姿に感動しました。私も、このまま人生を終わりにたくない、何かできることがあるはずだと思い、定時制高校に入学する決意をしました。

私は今、六十二才です。老眼が進み、細かい字を読むのもひと苦労です。

計算は少しできるようになったのですが、まだまだxやyといった文字がでてくる数学の問題は難しいです。さらに方程式や関数と言われて困っていますが、根気強く教えてくださる数学の先生には、本当に感謝しています。おかげで、一番苦手な数学の問題も、少しずつ理解できるようになりました。ほかにも授業で新しいことを学ぶのとても楽しいです。

入学した当初、まわりは十代の若者たちばかりでした。「孫みたいなもんとは、友だちにはなれん。」と思っていました。少しづつ打ち解けることができました。昼間は懸命に働き、疲れているのに夜は勉強している若い人たちと交わると、不思議に元気がもらえます。

私は、この歳になってから学び直していることに喜びを感じています。中卒で働きたたことを後悔していませんが、できるならば、そのまま学べていたらと思います。だからこそ、若い人たちには、いろんなことにチャレンジして、若いうちにどんどん勉強してほしい、青春を大事にし、よく勉強して、後悔しない人生を歩んでもらいたいと思っています。

私は、今、若者たちといっしょに青春まった中にいます。気分は最高です。専攻の機械科も言うことなしです。急がず、高校生活を楽しみます。人生は死ぬまで勉強。死ぬまで青春です。これからも、この気持ちを忘れずがんばります。私が作った短歌です。

還暦を 迎えて学ぶ 定時制 気分は最高 専攻機械科